

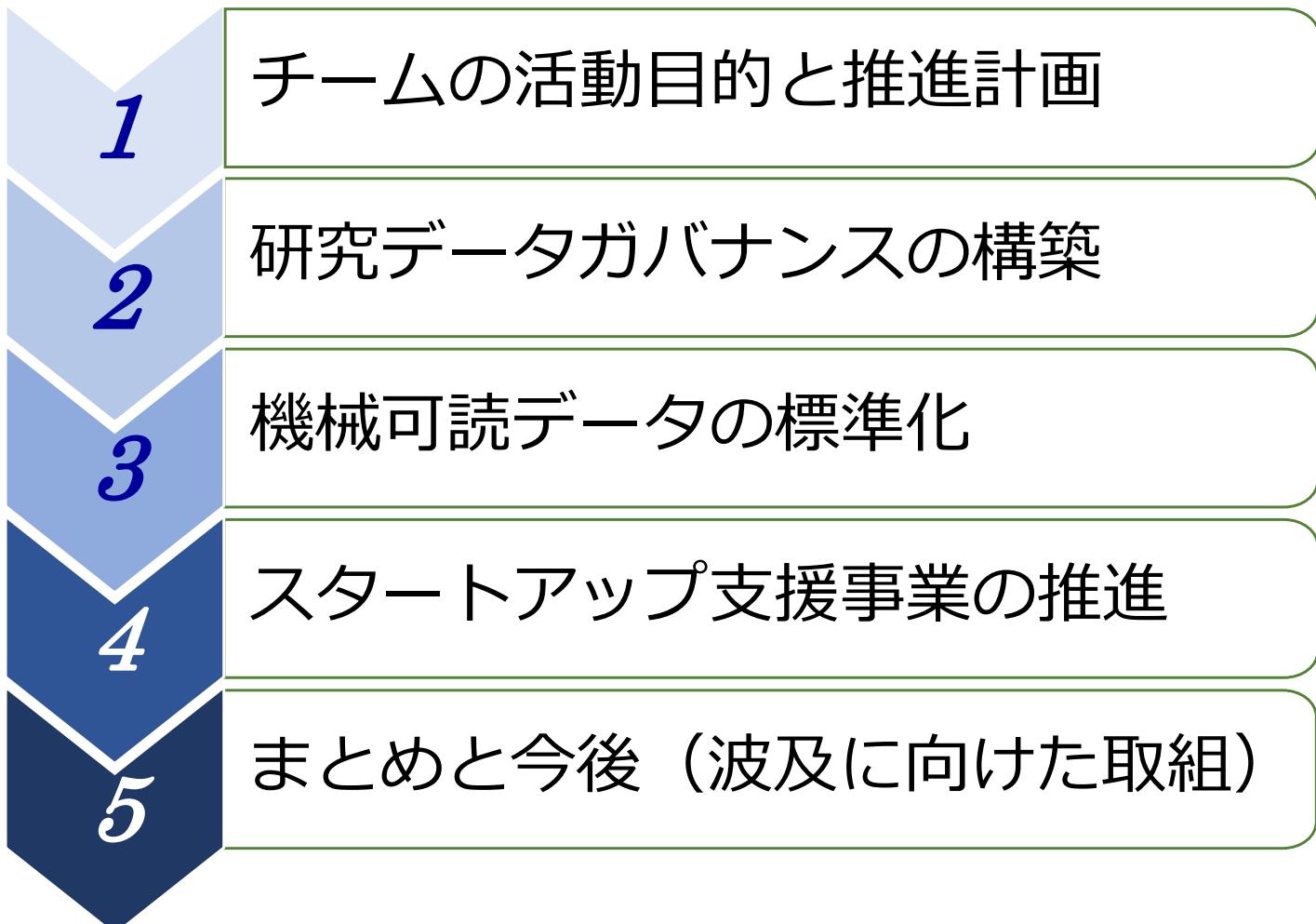
研究データガバナンス構築に向けた ルール・ガイドラインの整備

—ルール・ガイドライン整備チーム活動・計画報告—

報告者：松原 茂樹（名古屋大学）

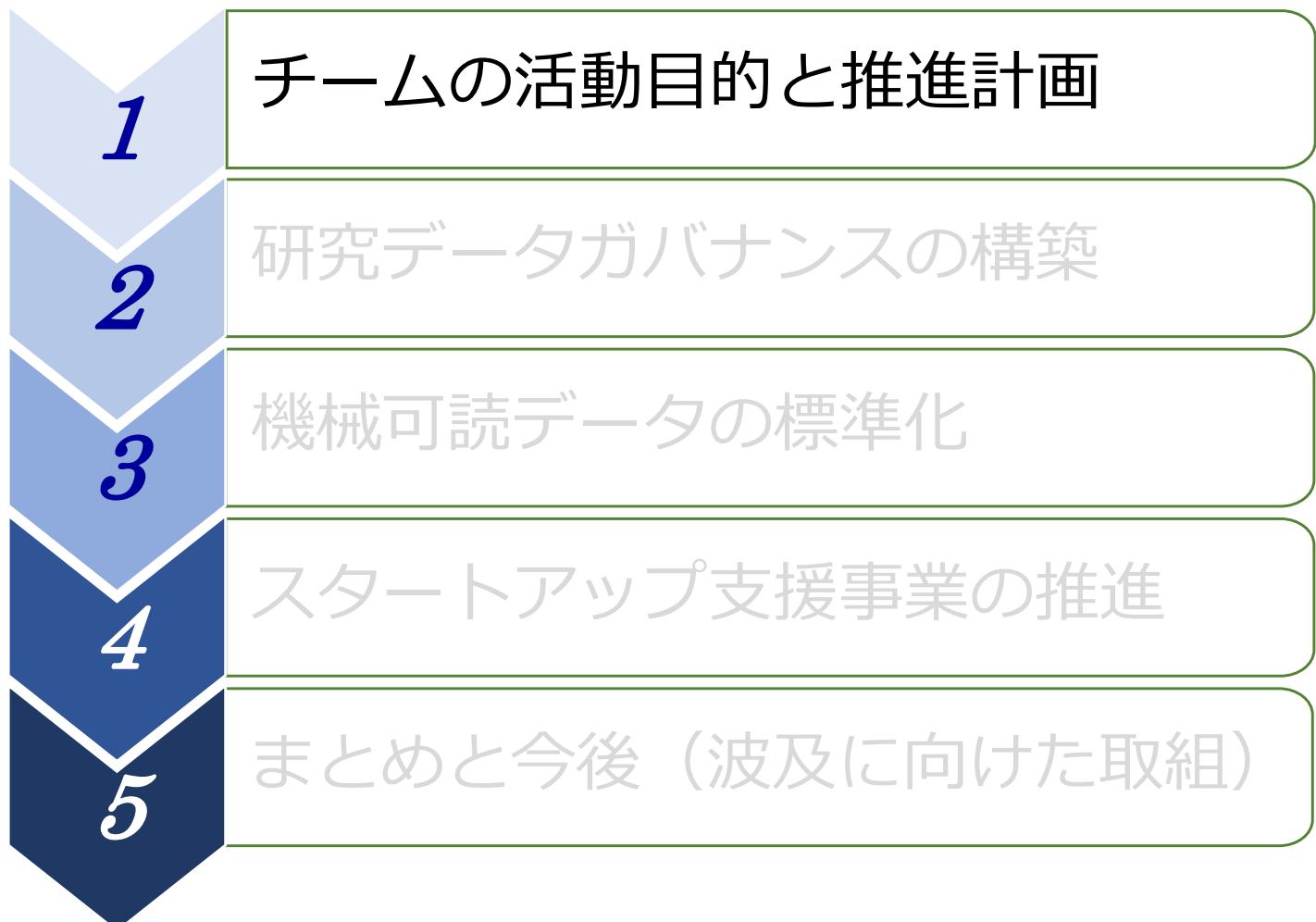
活動報告の内容

- ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画

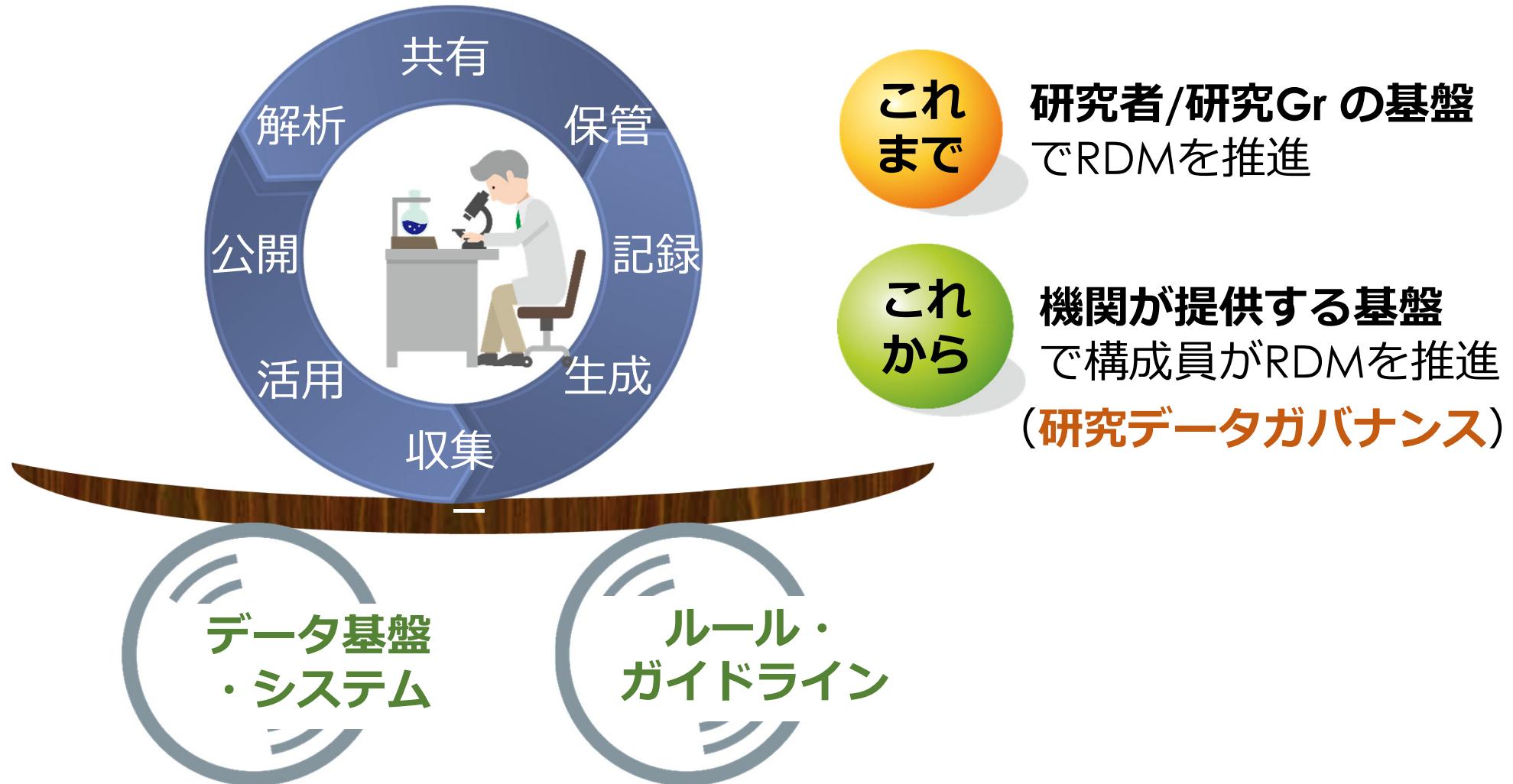


活動報告の内容

- ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画



学術機関の研究データ管理 (RDM)



研究の**安全性**かつ**効率**が向上し、大学の**研究力**が高まる仕組み

研究データエコシステム構築事業

研究データ基盤高度化チーム
NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

研究データ基盤の機能実装

NII リーダ機関

活用 コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境の
パッケージ化と流通機能を提供し、
研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼 データプロビанс機能

データの来歴情報の管理から利用
状況を把握でき、データ公開への
インセンティブモデルを提供

蓄積 セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機
能を有する超鉄壁ストレージを提
供し、機微な情報も安心して保全



データガバナンス機能 管理

計画に基づきデータ管理等を機械
的に支援し、DMPをプロジェクト
管理に不可欠な仕組みへと変革

キュレーション機能 流通

専門的なキュレーションを実践
できるエコシステムを構築し、
データ再利用の促進に寄与

秘匿解析機能 保護

秘密計算技術で機微な情報も安心し
て解析できる環境の提供で、新しい

ルール策定
基準作り



プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

リーダ機関

- 機関内サービス等とNII RDC の連携機能の整理と設計
- 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- 管理対象となるメタデータの設計と実証
- 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

融合・活用開拓チーム



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リーダ機関

- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

ルール・ガイドライン整備チーム



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

リーダ機関

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルールの設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

人材育成チーム



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

リーダ機関

- 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

研究データ管理スタートアップ支援事業

中核機関群：司令塔機能を果たし、各拠点大学と連携し相談等に対応する

NII

理化学研究所

東京大学

名古屋大学

大阪大学

- ✓迅速な相談、密な連携
- ✓現状課題の共有

各地域におけるコミュニティ：核となる拠点大学が支援機関としてリード

- 全国に、拠点大学を作り、中核機関群が支援し、各拠点大学が地域の多様な大学・研究機関を支援

- 潜在需要が想定される大学も含め、コミュニティを広げていく

2024年度開始予定：

- ・中国四国地区（広島大学）
- ・九州地区（九州大学）

2025年度開始予定：

- ・北海道地区（北海道大学）
- ・東北地区（東北大）

2023年度活動（抜粋）

- ・コンソーシアム設立
- ・セミナー開催
- ・支援チームの派遣
 - *データポリシー策定
 - *セミナー講師派遣
 - *学内アンケートの実施・分析

2023年度開始済：

- ・東海地区（名古屋大学）
- ・北陸地区（金沢大学）

波及

波及

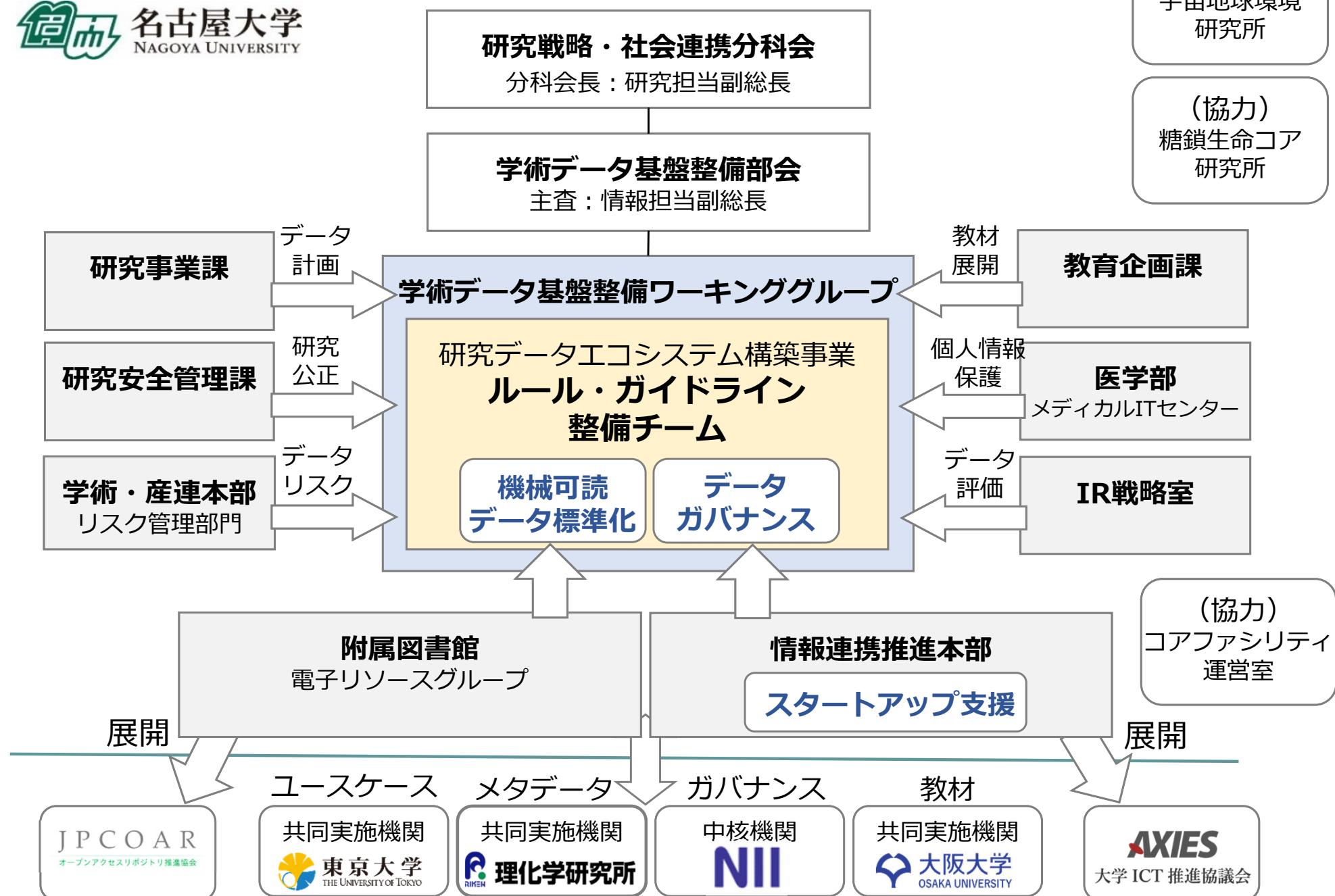
ルール・ガイドライン整備チーム：実施項目

データ ガバナンス の構築	データポリシー ・ガイドライン	管理・公開・利活用ガイドライン ガイドラインの普及と全国展開
	ガバナンス機能 (システム、DMP)	DMPハンドブック RDM基盤へのDMP基準の導入
機械可読 データ の標準化	研究データ公開 (リポジトリ)	機関リポジトリへのデータ登録手順 研究データ公開ガイドライン
	メタデータ作成 (汎用/分野別)	PIDユースケースの調査 分野から汎用へのメタデータ変換
スタート アップ の支援	コンソーシアム形成 (大学連携の体制)	研究データエコ東海コンソーシアム コンソーシアム連携と持続性
	RDM推進の支援 (支援チームの派遣)	ポリシー・ガイドライン策定支援 オープンアクセス実施支援

チーム推進体制（令和7年度）

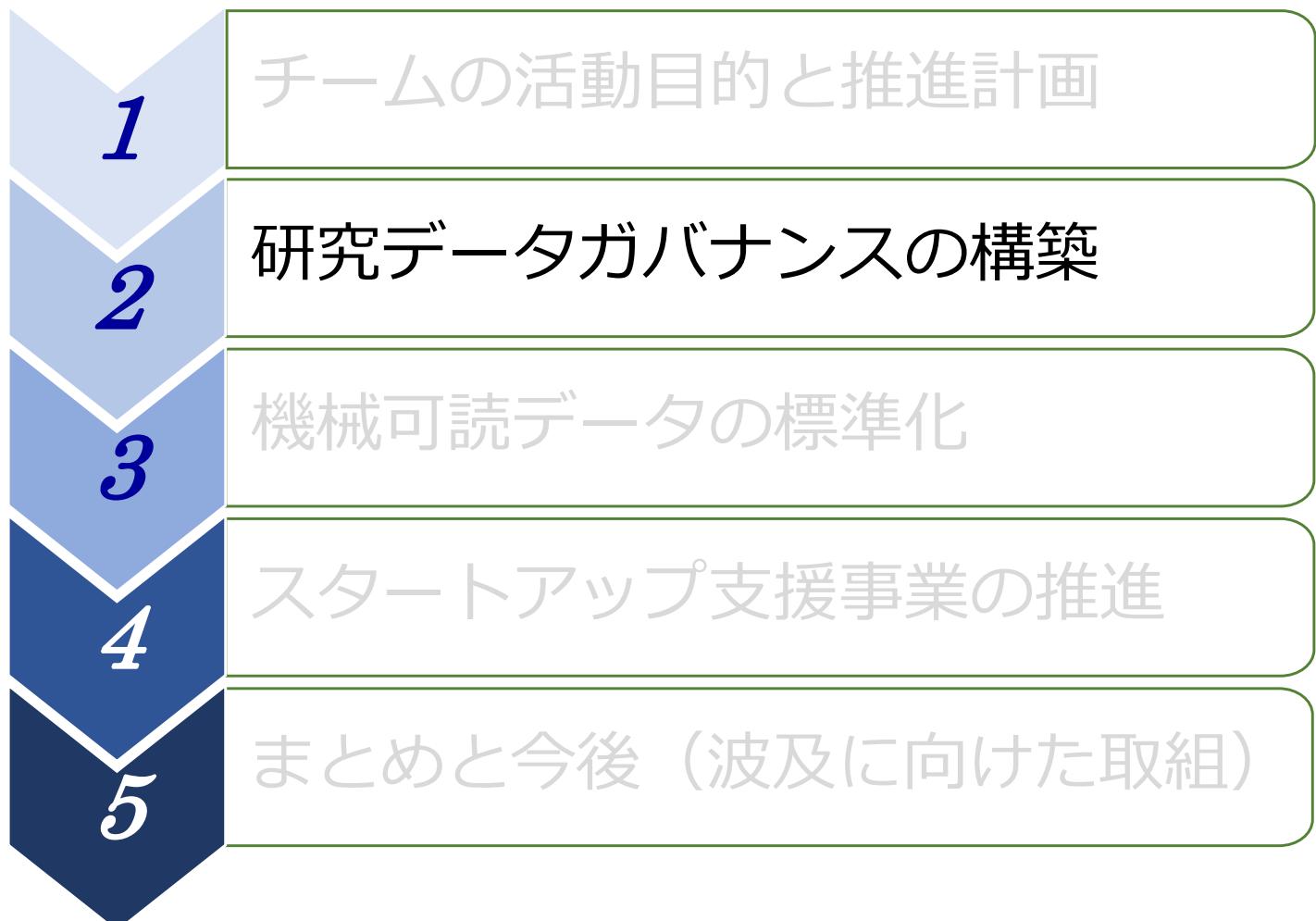


名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY



活動報告の内容

- ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画



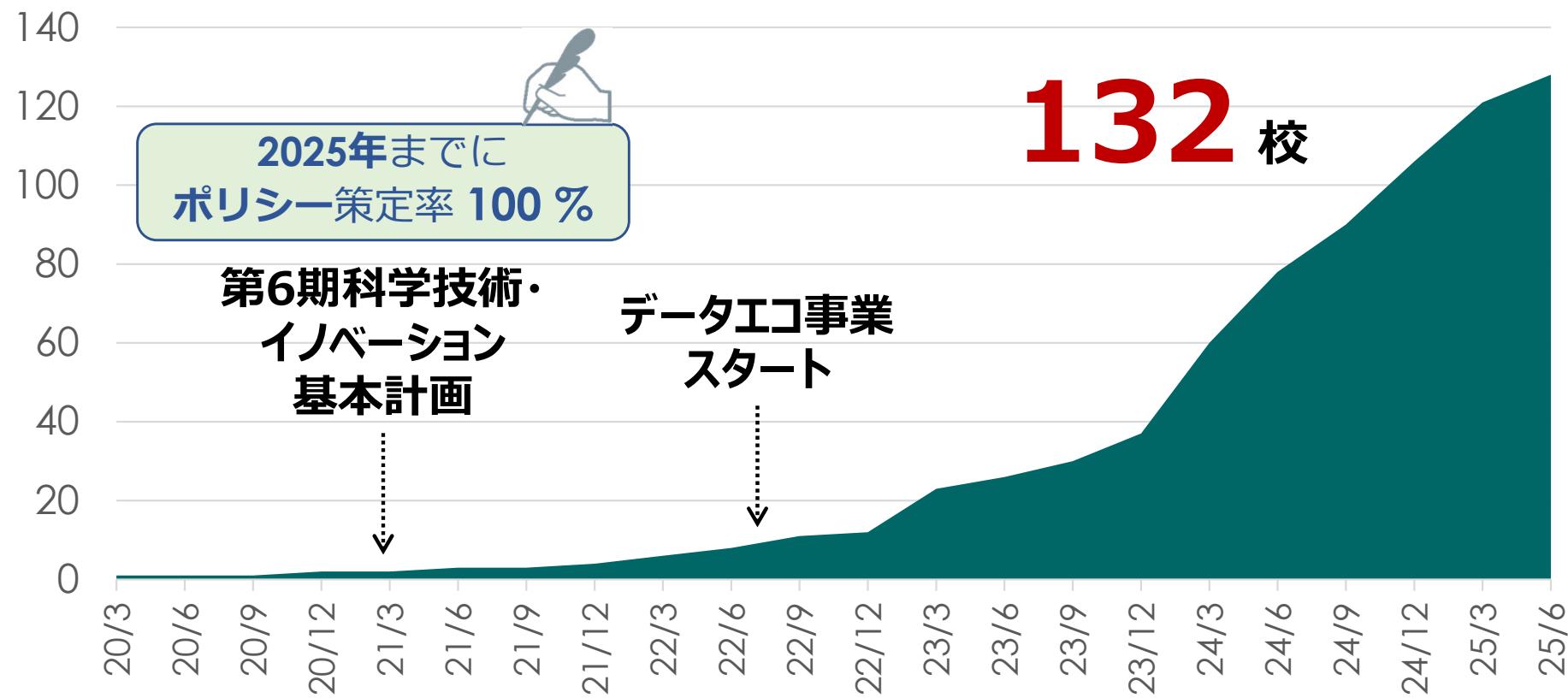
研究データポリシーの策定の現状

国内大学の研究データポリシー（一覧）より

AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会

<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/>

データポリシーを策定・公開した大学 (2020/3~2025/6)



研究データポリシー：NEXT



研究データポリシー策定の次の一手を
考える
～AXIES-RDM部会合同企画～

- ・**ポリシー策定**、DMP作成、即時OAへの対応は、オープンサイエンスに向けての初めの一歩に過ぎません。（中略）模索を始めた大学の事例から、学びましょう！

第1部

解説と事例

チュートリアル

名古屋大学

金沢大学

滋賀大学

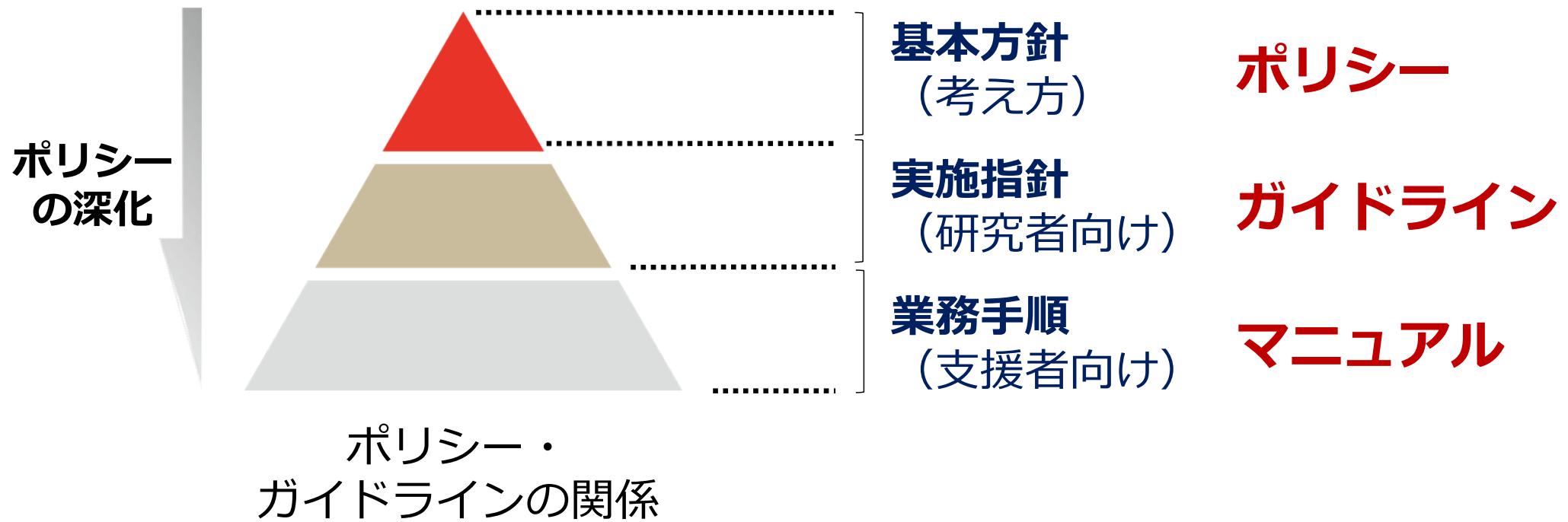
第2部

パネルディスカッション

研究データポリシー策定
の“次の一手”は？

データポリシー から ガイドラインへ

・データポリシー策定と展開の戦略



1. データポリシーは「基本的な考え方」を提示
2. ポリシーに基づき、**“研究データ取扱いガイドライン”**を策定
3. 研究者によるガイドライン遂行を支援する業務手順書を整備

研究データ取扱いガイドライン

・名古屋大学研究データ管理・公開・利活用ガイドライン

- ・学内規程, ポリシー, 要項等の網羅的調査と集約
- ・研究データ管理責任者 (≒ PI) の役割と責任
- ・研究サイクル (準備→実施→整理) に沿った項目

1. ガイドラインの位置付けと適用範囲

2. 研究の準備

- ・研究代表者の役割

/データ管理計画 DMP/

3. 研究の実施

- ・研究データの保管
- ・研究データの共有

/ストレージ, 個人情報/
/セキュリティ/

4. 研究成果の整理

- ・研究データの保存
- ・研究データの公開
- ・研究データの利活用

/研究公正/
/機関リポジトリ/
/知的財産/

5. 参考情報

研究データ管理・公開・利活用ガイドライン

・名古屋大学RDMサイトで公開

2. 研究の準備

2.1 研究データ管理責任者の役割

研究データ管理責任者とは、研究グループ内の大学構成員のうち、研究データの管理、公開、利活用について統括的な権限と責任を有する者をいう。研究グループの代表者であるPrincipal Investigator (PI) が想定される。研究グループに必ず研究データ管理責任者を配置すること。研究データ管理責任者が本学を離籍する場合には、研究データを管理する者が不在にならないように離籍前に対策を講じること。

2.2 データ管理計画の作成

データ管理計画 (Data Management Plan (以下、「DMP」という。)) とは、研究データの保管、共有、保存等の管理計画をいう。研究データ管理責任者は、DMPを作成し、研究グループ内で保有し、必要に応じて適宜、更新すること。

DMPに記載する項目として以下が考えられる。なお、DMPを作成する際は、本ガイドラインの3および4を適宜、参照のこと。

【DMPに記載する項目】

名古屋大学 研究データ管理・公開・利活用ガイドライン

名古屋大学学術データポリシーに準拠し、本学における研究データの適切な取り扱いに関する指針を定めています（学内限定）。

詳細は[こちら](#)

ガイドライン FAQ

・生成AIによるQ&A自動生成

研究の準備

DMPの内容を更新すべき具体的な状況は何ですか？

[詳細はこち](#)ら

データ管理計画（DMP）は、研究データの保管、共有、保存、公開、利活用に関する方針や手順をまとめたものであり、研究データ管理責任者が作成し、研究グループ内で保有します。DMPの内容は、研究の進行状況や体制の変更、法令や規程の改訂、研究データの性質や管理方法の変更など、状況が変化した際に適宜更新することが求められます。たとえば、研究データの保管場所や共有方法、保存期間、公開の可否や方法、利活用の方針に変更が生じた場合には、DMPを見直し、最新の内容を反映させる必要があります。（[リンク](#)）

研究の実施

研究データ管理で各段階の注意点と計画内容は何ですか？



研究データの適切なバックアップ頻度と方法、保管場所選定の注意点は？



研究データの格付けごとに適切なストレージ選定基準は何ですか？



名古屋大学のストレージ利用時の選択・運用の注意点は何ですか？



研究データ管理・公開・利活用FAQ — ガイドライン理解の手引き —

名古屋大学 研究データの管理・公開・利活用ガイドラインの内容を、よくある質問と答えを通してわかりやすく解説します。

生成AIチャットボット

チャット
RDMに質問



・AIが答える研究データ管理

チャットRDM



大学で研究データ管理を推進します。データポリシーの策定は完了しています。次に学内で研究データ管理を進めるために、どんな行動をするのがよいでしょうか。



大学で研究データ管理を進めるためには、以下の行動が推奨されます。

1. **関係者の意識向上**: 教職員や学生に対して、研究データ管理の重要性を周知するためのワークショップやセミナーを実施します。
2. **具体的なガイドラインの提供**: 研究データの管理や保存に関する具体的なガイドラインや手順書を作成し、学内に配布します。
3. **支援体制の構築**: 研究データ管理を支援する専門チームを設け、相談窓口を設置します。これにより、研究者が必要な情報やサポートを受けやすくなります。
4. **データ管理手法のトレーニング**: 研究者がデータを効果的に管理できるよう、データ管理手法やツールに関するトレーニングを提供します。
5. **フィードバックの収集**: 研究者からのフィードバックを定期的に収集し、ポリシーや支援体制の改善に役立てます。

これらの活動を通して、学内での研究データ管理が一層進歩する所を期待します。

質問を入力



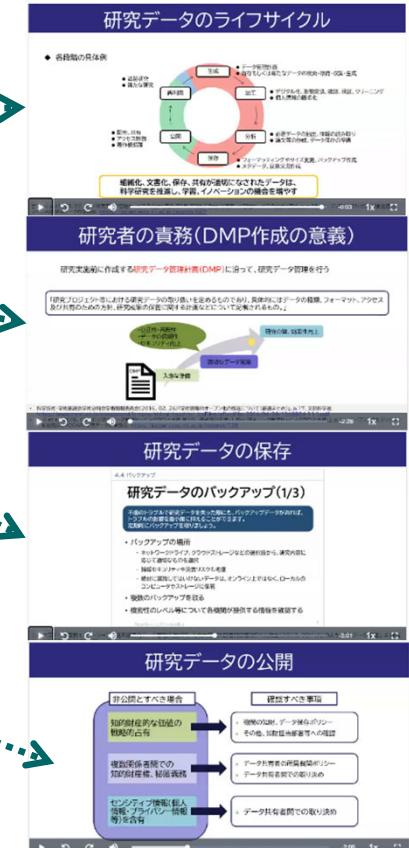
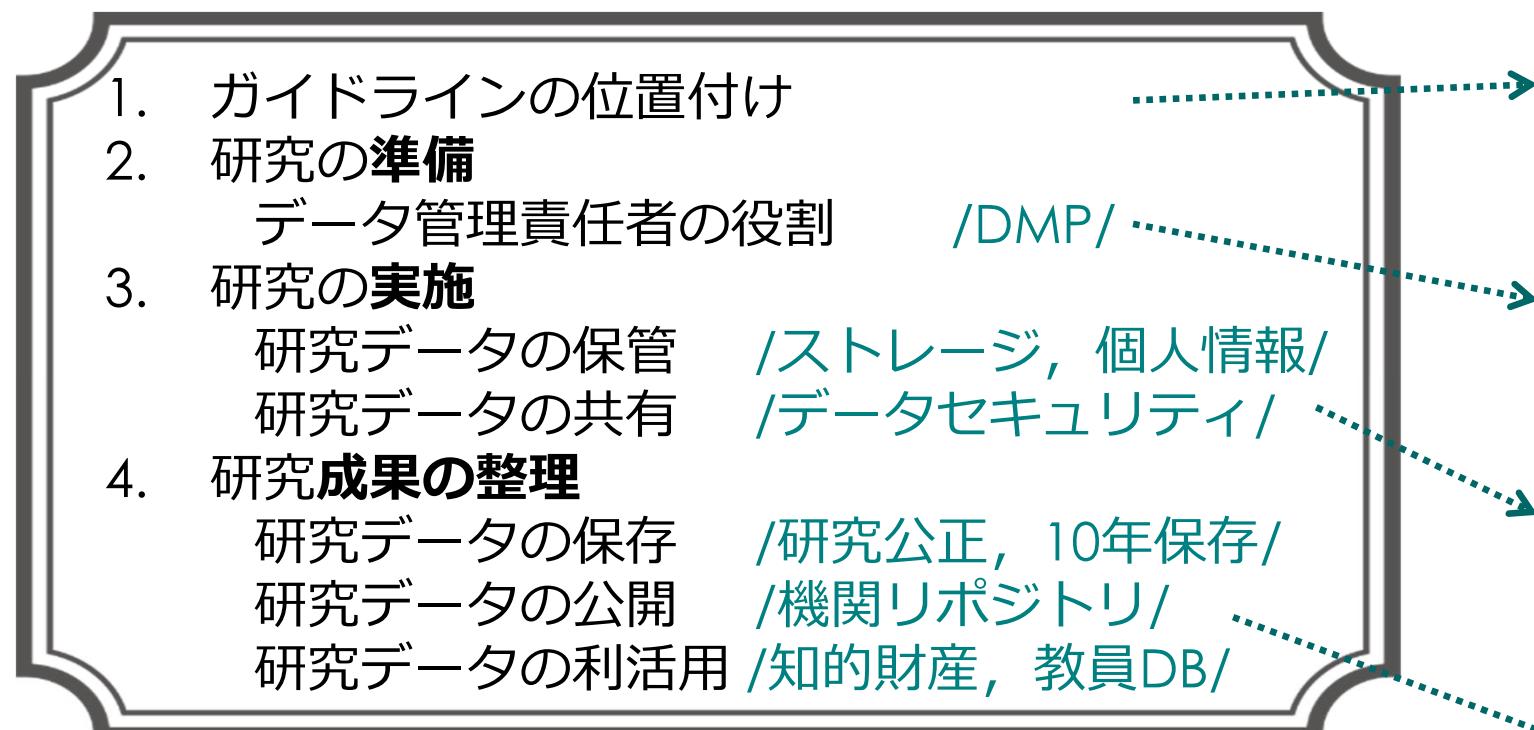
ポリシー・ガイドラインの普及

・ガイドラインの学内展開（人材育成チームと協力）

データ管理・公開・利活用ガイドライン

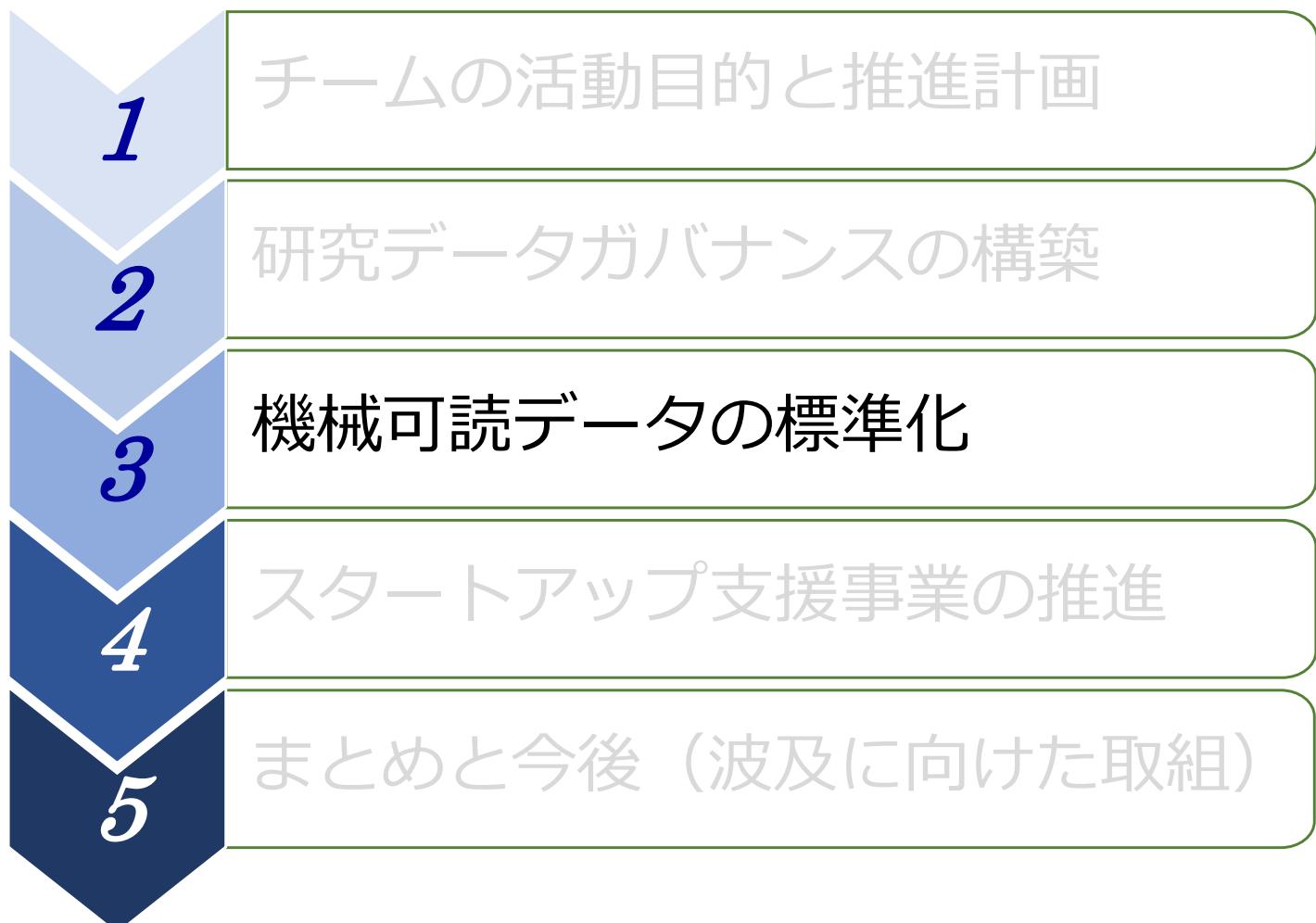
データ管理教材

ガイドラインに対応した教材作成



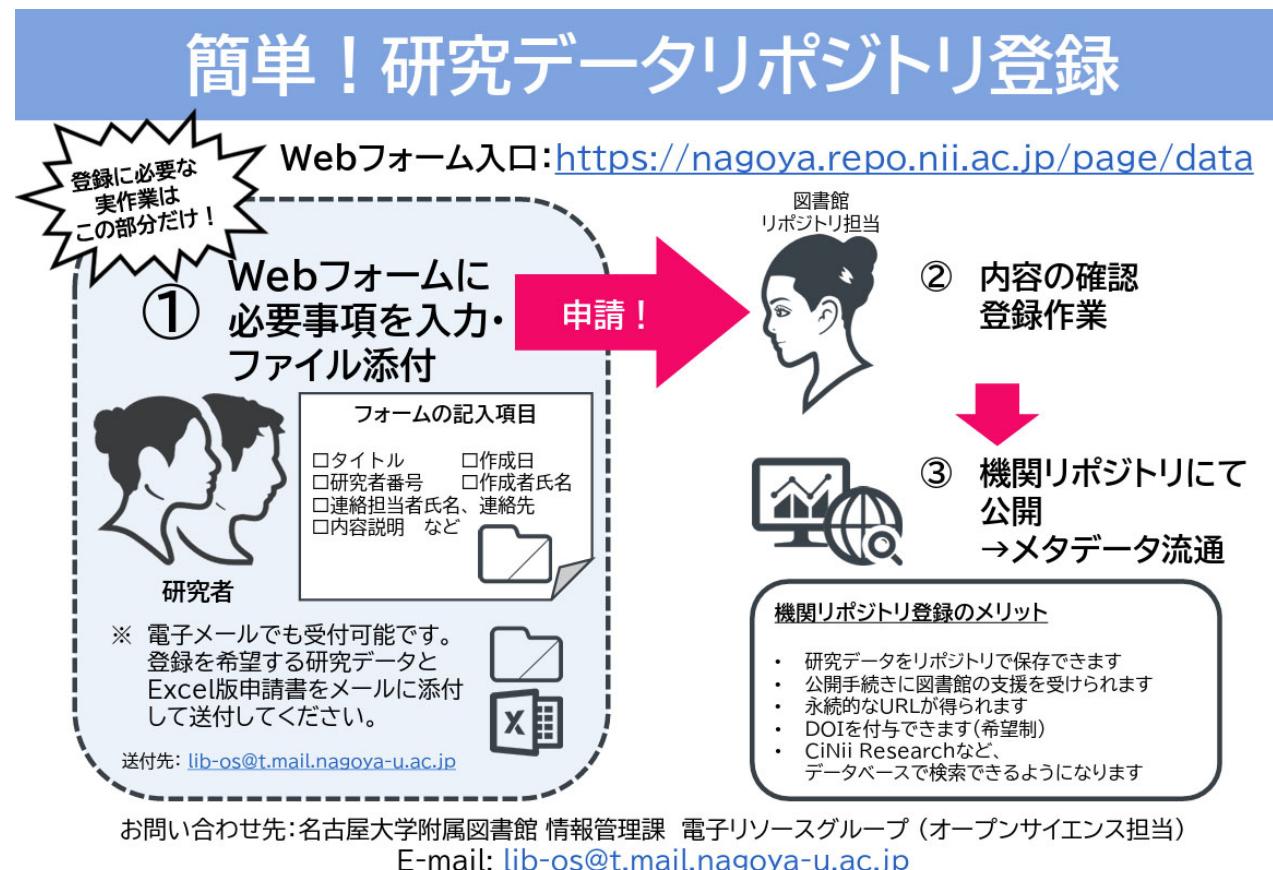
活動報告の内容

- ・ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画



機関リポジトリでの研究データの公開のために

- 研究成果のオープンアクセス対応に向けて

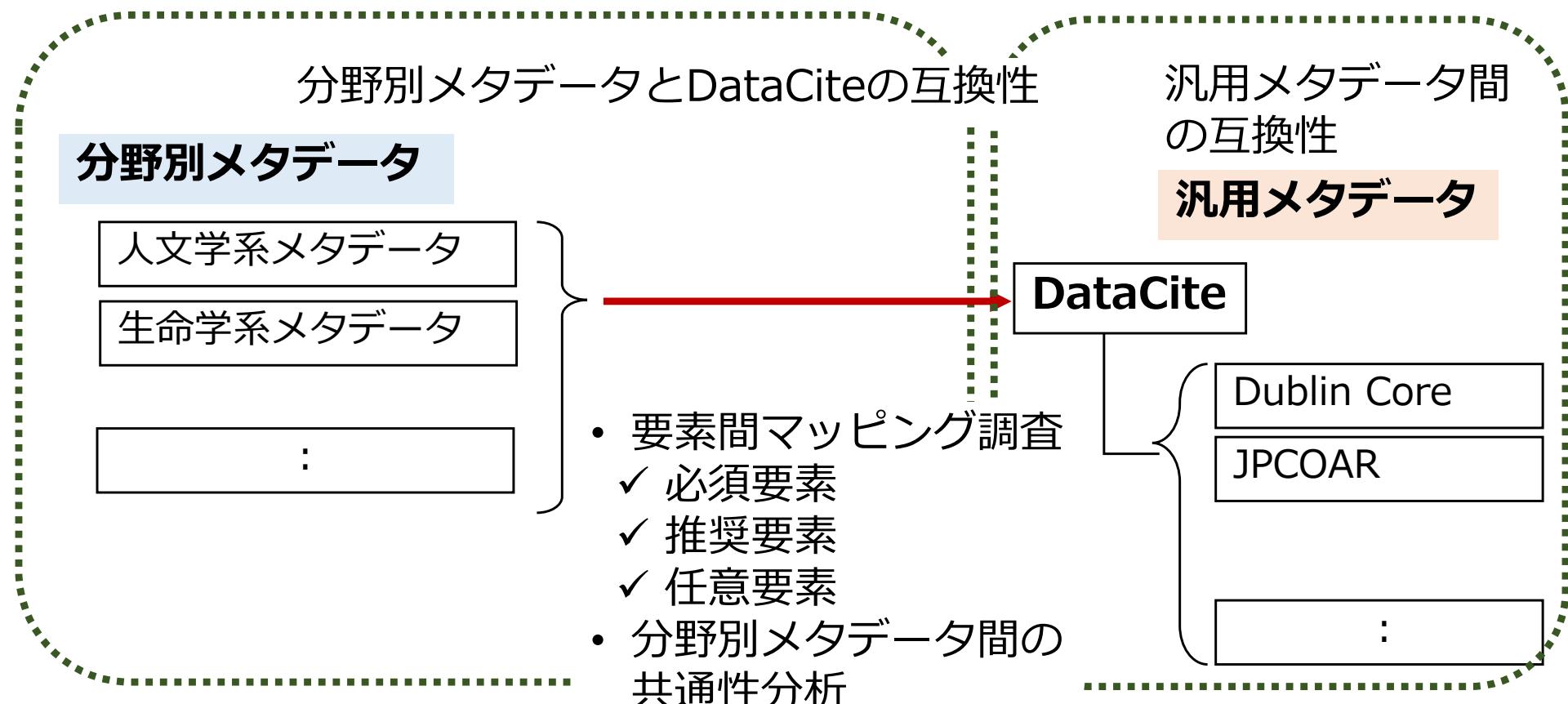


<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/rdata.html>

- （支援者向け）**オープンアクセス業務手順書**の整備と展開
- （研究者向け）**研究データ公開ガイドライン**の策定と展開

分野別から汎用へのメタデータ変換の可能性

・メタデータの相互運用性の実現に向けて



- ・シンプルかつ共通性の高い対応で分野横断可能性
- ・生態学系 EML → DataCite マッピングを実現

国際動向に準拠したメタデータ

- 研究データに関する
国際的な永続識別子 (PID) の利用可能性

研究データの関連要素に PID を付番

- PID に紐づく属性をメタデータに付与
- PID を介して研究データの関係の共有

データ

DOI, ...

論文

DOI, ...

研究者

ORCID, ...

学術機関

ROR, ...

関連資料

DOI, ...

実験機器

DOI, ...

→ 各要素をPIDに紐づけて管理・流通させるユースケース収集
新たな要素へのDOI付番を試行

M300 情報連携推進本部 / M300h 報告書 / その他報告書
PIDエコシステムに関する調査報告書(公開版)

http://hdl.handle.net/2237/0002011546

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
 Investigation_Report_on_the_PID_Ecosystem.pdf (9.1 MB)		 
Item type	itemtype_ver1(1)	
公開日	2024-09-26	
タイトル	PIDエコシステムに関する調査報告書(公開版)	
タイトル	ja	
言語		
その他のタイトル	Investigation Report on the PID Ecosystem (Public Version)	
言語	en	
著者	文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」ルール・ガイドライン整備チーム	

ルール・ガイドライン整備の事例形成

- 大学における取り組みの共有と展開 (AXIES RDM部会と連携)



大学ICT推進協議会 <https://axies.jp/>

研究データマネジメント部会

<https://rdm.axies.jp/sig/24/>

データポリシー・ガイドラインの整備と運用の事例を蓄積 雑誌「情報の科学と技術」 (情報科学技術協会の月刊誌に毎号掲載)



講演内容を元に寄稿



名古屋大学学術機関リポジトリ
「NAGOYA Repository」における
論文及び研究データ登録の実際と
課題

田中 幸恵

2024年74巻10号 p.429-434

教材「情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント」における利用の実際と課題

元木 正和, 古川 雅子, 青木 学聰

2025年75巻1号 p.42-47

研究データ管理計画・メタデータの作成支援ツールについて 一慶應義塾大学における事例

金子 康樹

2025年75巻4号 p.179-186

研究データをより見つけやすくするためのメタデータ変換と学術機関リポジトリへの登録: 太陽地球系物理学分野における実践

能勢 正仁, 新堀 淳樹, 三好 由純, 堀 智昭, 大平 司, 岡本 麻衣子, 直江 千寿子, 我喜屋 累, 田中 幸恵, 相良 肇, 青...

2024年74巻11号 p.487-493

大学生の理解を引き出す「RDMヒアリングシート」

浅川 樹子, 青木 学聰

2025年75巻2号 p.79-85

京都大学における研究データ管理の取り組み

小野 英理, 渥美 紀寿

2025年75巻5号 p.238-242

研究データ管理の実践を促進する
人材育成環境の構築に向けて

甲斐 尚人, 神崎 隼人, 白井 詩沙香, 古川 雅子, 長岡 千香子, 松浦 かんな, 古谷 浩志, 吉賀 夏子, 菅原 裕輝, 田儀 勇...

2024年74巻12号 p.538-544

研究データ管理支援人材育成の取組: 九州大学ライブラリーサイエンス専攻における履修証明プログラムの概要

石田 栄美

2025年75巻3号 p.130-135

データ集中時代の大学の研究競争力の要(1) 一あらゆる分野の研究者のための高度デジタル研究環境の整備

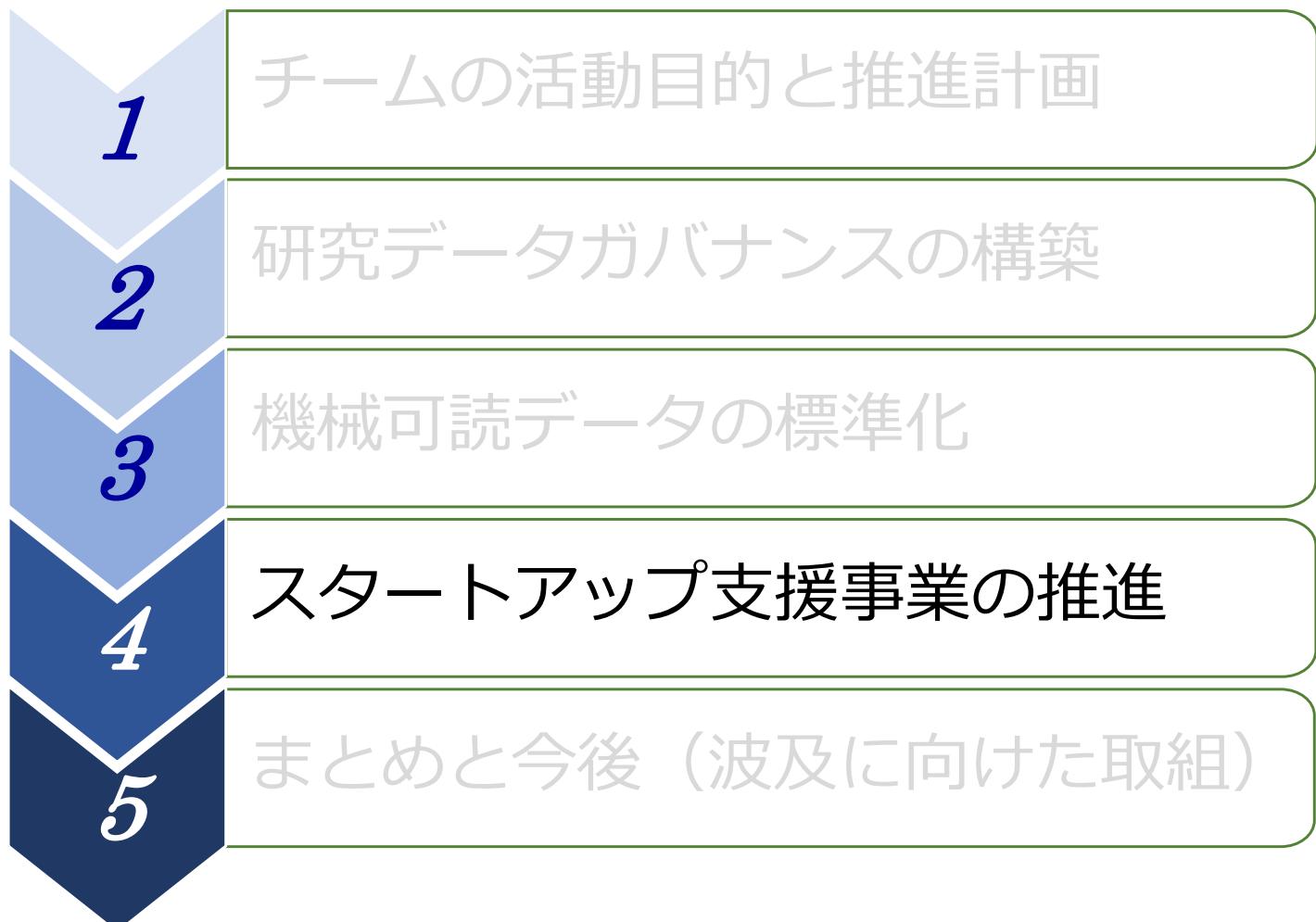
船守 美穂

2025年75巻6号 p.276-282

→ 雑誌への連載を継続し冊子化して学術機関に配布

活動報告の内容

- ・ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画



コンソーシアムの構成

- 会員機関 : **37** 機関/部署 (2025.09現在)



研究データエコシステム東海コンソーシアム

正会員

- 愛知教育大学
- 愛知県立芸術大学
- 愛知県立大学
- 愛知東邦大学
- 朝日大学
- 核融合科学研究所
- 岐阜県立看護大学
- 岐阜大学
- 金城学院大学
- 皇學館大学
- 鈴鹿医療科学大学
- 中京大学
- 豊橋技術科学大学
- 長岡技術科学大学
- 名古屋工業大学
- 名古屋市立大学
- 名古屋大学
- 浜松医科大学
- 広島大学
- 三重大学
- 三重短期大学
- 和歌山大学

準会員

- 愛知医科大学総合学術情報センター
- 愛知学院大学 研究推進・社会連携部
- 愛知工業大学 附属図書館
- 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 大学総務課
- 金沢大学 学術メディア創成センター
- 金沢大学 附属図書館
- 工学院大学 学術情報センター工手の泉
- 静岡社会健康医学大学院大学 事務局教務課研究支援室
- 大同大学 研究・社会連携推進室
- 東北大学 データシナジー創生機構
- 豊田工業大学総合情報センター
- 名古屋経済大学 情報センター
- 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学 図書館
- 藤田医科大学 図書館
- 名城大学附属図書館

公立大 **16** % , 私立大 **43** %

短期大学 **3** 校

コンソーシアム活動（1）：推進支援

・チーム派遣による推進支援

1. ルール・ガイドライン策定支援

- ・支援チームが策定過程を伴走

設立以来：**19** 機関



2. 講師派遣

- ・会員機関が主催するFDなど講演会に講師を派遣

設立以来：**10** 機関

3. 構成員の実態調査・分析支援

- ・AXIES 雛形を用いた学内アンケートの実施・分析支援

設立以来：**6** 機関

人材・成果の
共有



コンソーシアム活動（2）：セミナー開催

第9回セミナー テーマは「研究データエコシステムの展開」

研究データエコシステム構築事業においてRDMの組織的推進へのアウトリーチを担う
「人材育成チーム」と「ルール・ガイドライン整備チーム」の成果を共有します

2025.11/5(水)
14:00 - 17:00



講演

名古屋大学 情報基盤センター
2階201演習室
(ハイブリッド開催)

学術機関にご所属の方等
教員・職員等
どなたでも

甲斐 尚人 氏 (大阪大学D3センター 准教授)

「研究データマネジメント実践人材育成の現在地—大阪大学の取り組みを例に—」

浅川 横子 氏 (名古屋大学情報基盤センター 特任助教)

「研究データ管理ガイドラインの作成と展開」

叢 艶 氏 (名古屋大学情報基盤センター 特任助教)

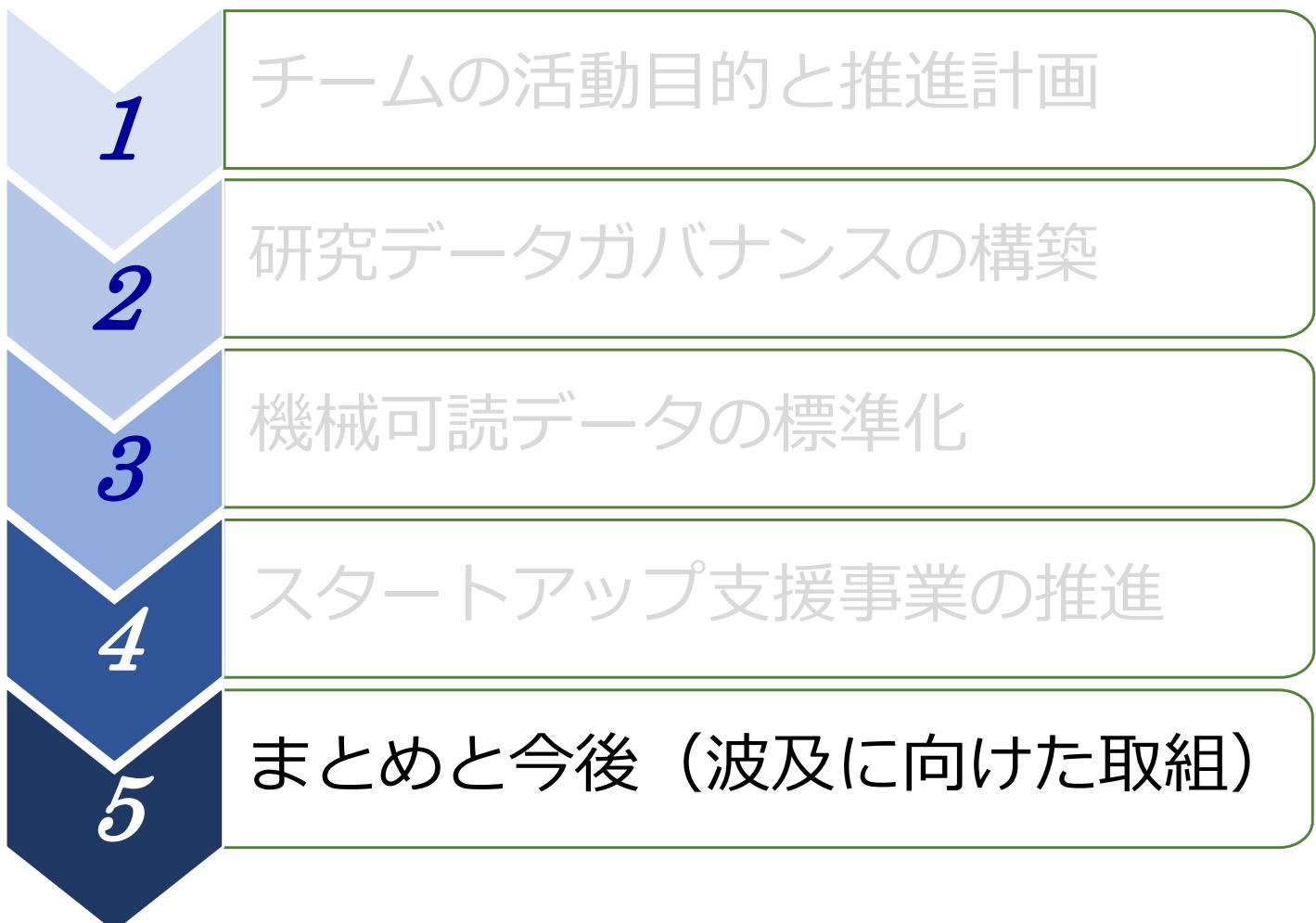
「研究データについてのメタデータとは？」

藤田 卓仙 氏 (名古屋大学情報基盤センター 特任准教授)

「データ法制を踏まえた研究データガイドライン」

活動報告の内容

- ルール・ガイドライン整備チームの活動・計画



(まとめ) 波及効果につながる取組み

1. 研究データガバナンスの構築

- 研究データ取扱いガイドラインの策定
(研究データ管理・公開・利活用ガイドライン)
- ガイドラインの普及と展開
(ポリシー検討WG) (NIIオープンフォーラム2025)
- セミナー等での講演内容を事例報告として寄稿
(AXIES RDM部会との連携)

2. 機械可読データの標準化

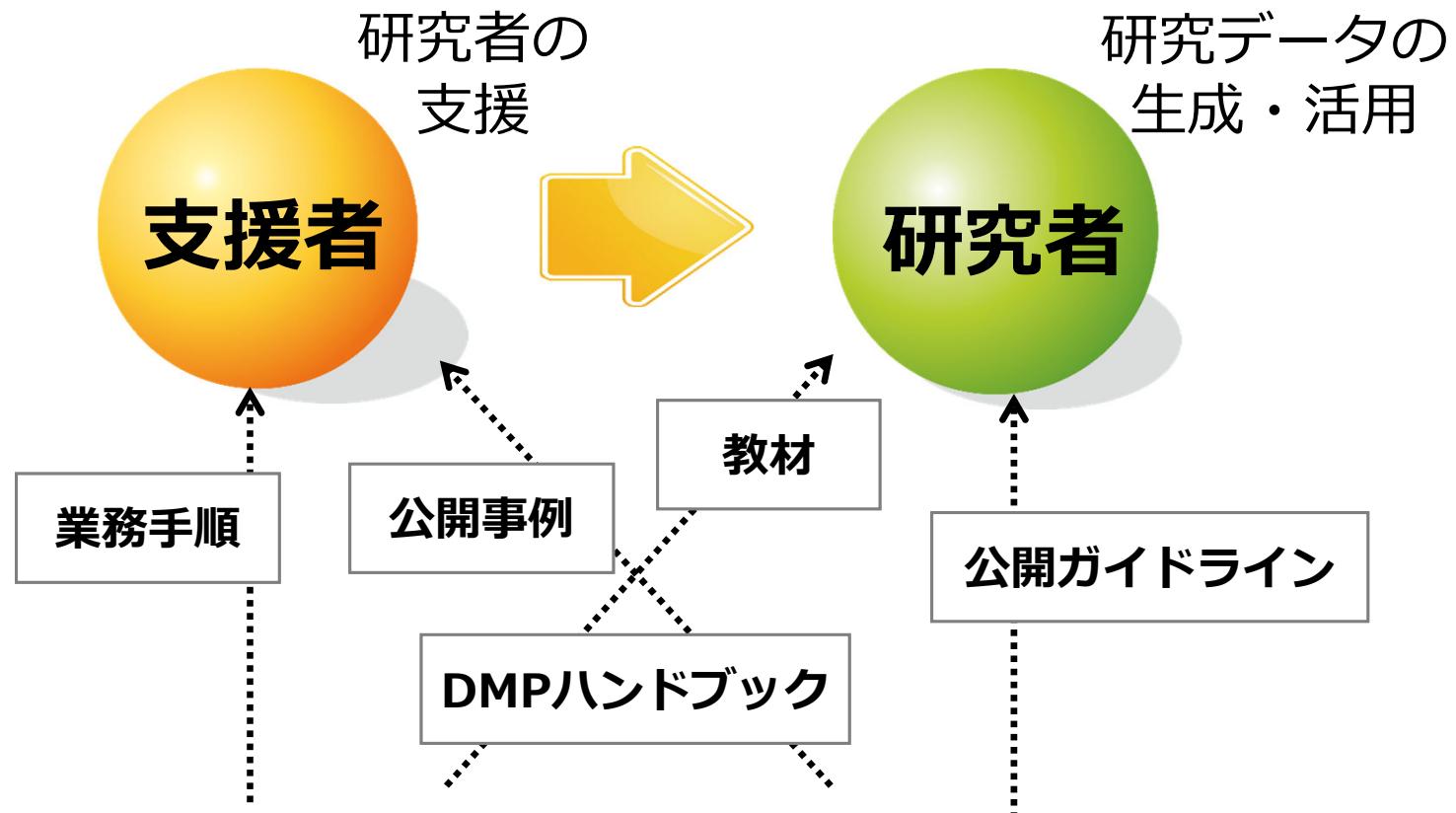
- 分野別から汎用メタデータへの変換 (EML → DataCite)
- 国際的な永続識別子 PID の利用可能性

3. 大学間連携体制の整備

- 「研究データエコシステム東海コンソーシアム」の運営
(第9回 東海コンソーシアムセミナー 開催)
- 地域コンソーシアム間連携への展開
(AXIES2025 年次大会 研究データマネジメント部会企画)

ルール・ガイドライン整備チームの推進方針

- 利用者（研究者、支援者）のリアルな課題にフォーカス
 - 実際の運用（機関や部署）からのフィードバック
 - 研究分野の共通性や国際的な潮流を意識



研究データガバナンス構築
[ポリシー、ガイドライン]

機械可読データの標準化
[メタデータ、永続識別子（PID）]